

宮古島市におけるアカギヒメヨコバイによるアカギ被害の初確認について

令和7年7月7日に、宮古島市内のアカギにおいて、アカギヒメヨコバイによる被害が確認された。

アカギヒメヨコバイは令和元年に沖縄本島内で初確認されて以降、本島内と周辺離島で蔓延している害虫であることから、令和5年度に沖縄県環境再生課において「アカギヒメヨコバイの防除に関する手引き」を作成している。

アカギヒメヨコバイによる被害拡大防止のためには、早期に対策を図る必要があることから、マスコミ各社におかれましては、県から直接周知することができない事業用地や個人住宅を含む民有地での対策を促すため、広く報道していただきたい。

1 概要

- ・アカギヒメヨコバイ（学名：*Coloana arcuata*）は、令和元年に県内で初めて那覇市内で確認されて以降は急速に被害を広げ、北部地域や周辺離島でも確認されている。
- ・アカギヒメヨコバイはすでに沖縄本島内等で蔓延している害虫であることから、沖縄県環境再生課において「アカギヒメヨコバイの防除に関する手引き」（令和6年3月）を作成している。
- ・これを参考に、学校や公園、道路等の県内各所に植栽されたアカギを保全するため、緑化木管理者において早期に予防を含めた対策が図られるよう、注意喚起及び防除方法の周知を行っている。

2 経緯

- ・令和7年7月7日、宮古農林水産振興センターの職員が宮古島市内のアカギに、アカギヒメヨコバイの被害と思われる葉の脱色・落葉を確認した。
- ・令和7年7月8日、同センターから県森林資源研究センターに、アカギヒメヨコバイによるものを同定依頼した。
- ・令和7年7月14日、採取したアカギの葉に付着していたヨコバイを、県森林資源研究センターが同定した結果、同種であることが特定された。なお、九州大学にも同定結果について確認していただいた。

3 宮古島市におけるアカギの被害状況

- ・令和7年7月8日時点で、宮古農林水産振興センターの職員により、宮古島市下里及び西里地内の12か所で同種による被害が確認されている。
- ・被害が確認されたアカギは宮古農林水産振興センターから管理者等に対して、防除対策を周知している。

4 同種の生態及び防除方法について

- ・別紙のとおり

5 県の対応状況について

- ・宮古島市および多良間村の緑化事業担当課や県の道路・公園管理者等へ、注意喚起を行うとともに、防除対策の方法について情報提供済み。

問い合わせ先

沖縄県環境部環境再生課 TEL098-866-2064 （仲村、新崎）

アカギヒメヨコバイの防除方法

✓ 剪定による防除

- ・被害葉や枝を切り落として処分。
- ・焼却できる場合は、現地もしくは焼却施設等で焼却。
- ・焼却できない場合は、ビニール袋などに入れてゴミとして出す。
- ・焼却施設等へ移動の際は、アカギヒメヨコバイが飛散しないようビニール袋などに入れる。



アカギヒメヨコバイ
成虫

✓ 農薬による防除

- ・樹幹打設剤は、アカギの葉に有効成分を行きわたらせることで防除を行う。対象木にドリル等で穴をあけ、直接樹幹に薬剤（カプセル）を打設する。
- ・散布薬剤は、葉やアカギヒメヨコバイの幼虫に直接散布する。アカギヒメヨコバイは葉裏に寄生することから、葉の裏に散布を行うと効果的である。

- ✓ 人の衣服などに付着して運ばれ分布を拡大する恐れもあるため、被害木処理の際は服装に付着しないようまた、作業後は衣服を払うなど注意が必要。

- ✓ その他、詳細については「アカギヒメヨコバイの防除に関する手引き」（令和6年3月）を参考。

https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/026/995/boujotebiki.pdf

主な登録薬剤

（令和7年7月16日現在）

GF オルトランカプセルの適用内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法	総使用回数	
					本剤	アセフェート
アカギ	アカギヒメヨコバイ アブラムシ類 ケムシ類	幹周囲 10cm 毎 に1個	発生期直前	樹幹 打ち込み	2回 以内	5回 以内

※街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うことが求められる。

引用元：GF オルトランカプセル 印刷用製品情報（2022年8月29日作成）

https://www.sc-engei.co.jp/assets_before/content/files/2022_2.pdf

アプロードフロアブルの適用内容

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	使用 方法	本剤の 使用回数	総使用回数
アカギ	カイガラムシ類幼虫 アカギヒメヨコバイ 幼虫	1000 倍	200～ 700g /10a	発生 初期	散布	6回以内	6回以内 （ブプロフェ ジンを含む農 薬）

引用元：アプロードフロアブル 印刷用製品情報（2024年7月10日現在の登録内容）

<https://www.nichino.co.jp/products/query/db/pdf/88.pdf>

その他)

- ・農薬の使用にあたっては、容器のラベルに記されている注意事項を守ってください。
- ・GF オルトランカプセルについては沖縄県指定天然記念物である「ヨナグニサン」の生息地での使用を控えること。

✓ 農薬による防除例



樹幹打設剤の挿入



高所作業車を利用した薬剤の散布状況

✓ アカギへの被害

- ・アカギヒメヨコバイに吸汁されると、アカギの葉に吸汁痕が無数に発生し、吸汁痕の周囲は黄褐色から褐色に変色し落葉する。
- ・葉への被害が進むと、木によっては全落葉に至る場合がある。
- ・落葉後に発生する新芽は萎縮し、変形する傾向にある。このように葉へのストレスが負荷される状態が続くと、樹皮がはがれ、枝枯れが発生する場合がある。

健全木



被害木



特徴：

- ・濃い緑色／新芽はツヤのある黄緑色
- ・変色した葉があったとしてもわずか
- ・葉は旺盛に茂っている

特徴：

- ・葉は黄緑色～黄色（落葉が近いと褐色）
- ・葉は緑色の部分も残るが変色部が大きい
- ・葉には萎縮が見られ、密度が低下

急激な被害拡大を防ぐためには、初期防除が重要です！